

2012年釧中・湖陵は百周年を迎えます

くまざさ

第53号

発行
釧路湖陵同窓会
くまざさ編集委員会
発行日
平成20年8月9日
印刷所
藤田印刷(株)

いたずらに合格者数を追いかけるのではなく、本人の希望を最重視し「前期勝負、中後期抑える」という長期戦が本校の進路指導の大前提ですが、今年も生徒達は長丁場によく耐え、国公立大学入試では、前期で大量の101名合格、中後期でも31名合格という素晴らしい数字を叩き出してくれました。現役合格者数132名は史上第2位の好成績で、卒業生の実に約2人に1人が国公立大学に合格していることとなります。これは道内でもトップクラスに位置する素晴らしい成績です。

東大・京大に現役合格者を出せなかったのは残念ですが、その分浪人生が頑張ってくれ、東大文Ⅲ・理Ⅰにそれぞれ合格を果たしてくれました。他大阪大に2名が現役合格。医学部医学科は好調で、現役で旭川医大に2名、札幌医大に2名が合格。浪人生も健闘してくれ、北大医学部に2名、札幌医大に2名、そして防衛医科大に2名と久しぶりに現浪あわせ

釧路湖陵高校
進路指導部長 天 内 優
(湖陵32期)

て10名が合格しました。尚、地理的な条件からか北大については伝統的に他の道内の進学校よりも受験者が少ない傾向にあります。今年も最難関の獣医学部1名を含む21名が現役で合格を果たしました。これは過去最高の合格率(受験者数/卒業生数)です。

また本校では「私文国理」の原則に従い、特に文系生徒については首都圏の著名私立大学進学を積極的に推奨してきましたが、若干の景気回復に伴い、ようやくその成果が目に見えるようになってきました。私立大学入試は早稲田大12名、慶應義塾大5名、明治大9名、青山学院大6名、立教大5名、中央大16名、法政大

国公立大に132名

平成20年3月卒進路概況

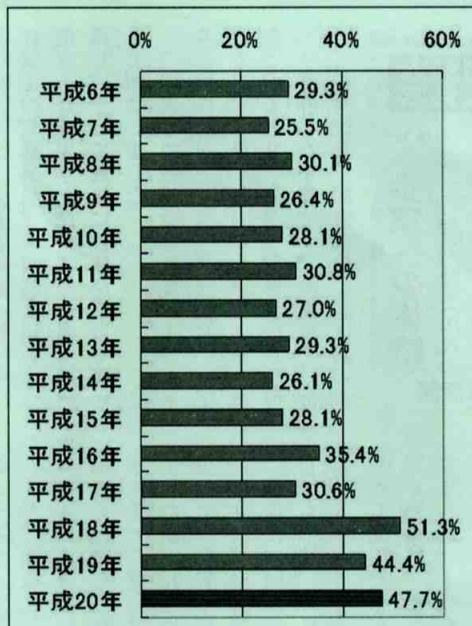
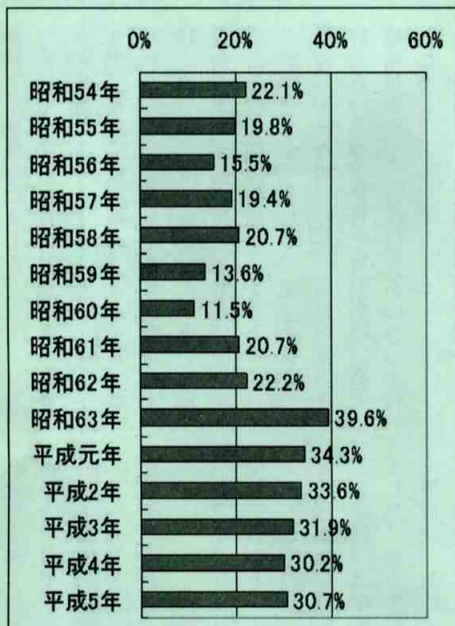
史上2位

9名、同志社大2名、津田塾大3名、東理科大8名、東京農業大17名(いずれも現浪あわせての数字)と、全入時代に入り、かえって難化が著しい難関大学に大量の合格者を出すことが出来ました。近年の好結果に慢心することなく、質・量共にさらに充実するよう頑張り続ける所存です。



平成20年3月卒業生進路実績

国公立大学合格率の推移(過去30年間:合格者数/卒業生数)



目次

100周年、他校は？	2頁	学園だより・互輝会	7頁
湖陵生の「しごと」	3頁	総会当番期より	8頁
「誠愛勇から」湖陵12期生の巻	4.5頁	出版案内・編集後記	
各地区の同窓会総会だより	6頁		

湖陵同窓会 HP <http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/>

他校の100周年は？

2012年に開校100周年を迎えます。では、他の高校では、どのような事業を行っているのでしょうか。道内3校に聞いてみました。

【根室高校】 根室高校は、平成18年に記念式典を行いました。同16年6月に準備会、9月に設立総会を開催しました。

組織は、組織、財政、特別事業、記念誌編集、記念式典、記念祝賀会の6委員会から構成されています。記念事業は、記念式典並びに祝賀会、記念誌発行、特別事業として時計モニュメントの整備、そして記念ジャズ公演です。そのほか、生徒会主催による講演会や北方領土関係の展示会を行いました。同18年10月22日、午前9時からモニュメントの整備、同9時30分からジャズ公演を同高校で行い、式典は午後1時から根室市民文化会館に会場を移して実施しました。そのあと、同4時から根室商工会館で会費制により祝賀会を行いました。ちなみに、募金の目標は1200万円でした。

また、記念誌は希望者に3000円で販売することになりました。
【札幌南高校】 札幌南高校の記念誌に詳しく経過が掲載されていました。100周年は平成7年のことでした。まず同窓会、PTA、学校側の代表者が同3年に集まり、草案が話し合わ

れました。翌年には、協賛会則や職員組織など具体的な案件に着手し、同10月に準備会が発足、同5年5月に総会が開かれ、準備が本格化しました。

さて、南高校の場合、100周年にあわせて、記念会館、校舎改築、記念誌の発行などがあり、寄付の目標を、1億6千万円としました。まず、一口100万円の大口寄付を募り、その後、徐々に一口の金額を少なくし、広く浅く集めました。その途中、大口寄付については免税措置がとられることになりました。そうした地道な活動が実り、目標をクリアしました。

記念式典は同7年10月21日に行われました。会場は2年前から予約を入れた厚生年金会館、祝賀会はパークホテルです。記念式典は、開会に続き、黙祷、校歌斉唱、校長、協賛会長、同窓会長があいさつし、歴代校長やPTA会長、教育功労、歴代同窓会長などへの表彰、並びに感謝状の贈呈が行われ、北海道知事から祝辞、生徒代表の言葉、祝電披露、そして閉会です。

記念祝賀会は、同窓会懇親会も含めて行われました。
【札幌東高校】 札幌東高校は、昨年（平

成19年）に開校100周年を迎えました。今年3月に発行された記念誌に、事業内容などが詳しく掲載されていました。「100周年記念事業」に係わる全日制同窓会との打ち合わせが行われたのは平成13年のことでした。この打ち合わせでは、100周年へ向けた全体確認、先行する記念誌の編集と予算などが話し合われました。

同14年は校内の打ち合わせ、その翌年度当初の職員会議で、記念誌編集の作業にとりかかることを決めました。同じ年の9月には、いよいよ設立準備会議のための打ち合わせが行われ、11月には協賛会の設立準備委員会が、同窓会、体育文化後援会、学校の代表者が集まり開催されました。ここでは、同19年度までの大まかな日程や協賛会設立総会などについて話し合いました。9月には教職員を対象とした意向調査も実施されたようです。

同16年12月には、PTAも加わり打ち合わせ、翌年2月には準備委員会が立ち上がりました。これまでの会合、準備委員会では、趣意書、会則、組織、式典、祝賀会、記念誌、記念事業の案が練られ、いよいよ本格的にスタートを切りました。

同17年7月、協賛会が設立され、趣意書などを決めました。このあと、役員会が11回、また同18年12月の「決起総会」、同20年2月に「解散総会」が開かれるまで、この2年間は息つく暇もないほど、100周年事業に集中したようです。

さて、記念事業ですが、まず、同19年8月27日に同窓生による記念講演（札幌コンベンションホールII学校に

隣接）が開催されました。

そして、10月6日に記念式典・演奏会が札幌コンサートホールKitaraで、祝賀会は札幌パークホテルで開かれました。式典は生徒参加型を基本に、クラシックを聴かせたいという協賛会の思いから実現しました。記念演奏会の第1部は同窓生によるクラシック演奏会です。そして、記念式典は、黙祷、国歌斉唱、校長、協賛会長の式辞とあいさつ、来賓からの祝辞、表彰、感謝状の贈呈、生徒代表あいさつが行われました。

このあと記念演奏会の第2部です。在校生の吹奏楽部、合唱部に加えて、創立100周年記念合唱団が組曲を披露し、そして最後に校歌を全員で斉唱して閉会しました。

このあとの祝賀会は札幌パークホテルに場所を移し、あいさつ、祝舞、テーブルスピーチ、軽音楽やスライド上映などのアトラクションが催されました。一番肝心な予算です。南高校とは違い、校舎改築、同窓会館（話はあつた

そうですが、さまざまな制約のため断念したそうです）がありませんので、約3600万円です。

☆取材を終えて

（編集委員のひとりごと）各学校より資料をいただきました。それを読むと、100周年というは、とてつもないパワー（お金も含めて）と年月が必要だと感じました。

事業は、各学校の個性があふれていました。あくまでも生徒、先生に視点を置けば、おのずから結論は見えてくるようです。

また、記録として、100周年記念式典にいたるまでの経過、反省などを細かく記録し、記念誌に掲載する必要がありますが、札幌東高校は、コラム欄を設けて、反省や裏話も掲載していました。これはとても参考になると思います。

最後に、同窓会も動きませんが、どうしても学校、特に先生に頼ることが多くなります。その反省の一つに、「せっかくな先生たちが一生懸命に準備をしていたのに、それに関係なく転勤がありました。100周年が軽く見られたのでは」という一文がありました。

ぜひ、湖陵高校の100周年（2012年・平成24年）は、成功に終わることを期待したいと思います。

最後に、100周年記念事業報告の資料を快くお送りいただきました根室高校様、そして、今年3月まで釧路湖陵高校に勤務し、現在札幌南高校勤務の田中禅教頭様にはたいへんお世話になりました。感謝申し上げます。

（湖陵30期 星 匠）



根室高校の100周年を知らせる新聞

「湖陵生のしごと」(その3)

市立釧路総合病院 リハビリテーション科

理学療法士

- 栗本 一宏さん (昭和52年卒、湖陵29期)
 近藤優佳子さん (平成3年卒、湖陵43期)
 松江 岳人さん (平成5年卒、湖陵45期)
 北出亜希子さん (平成5年卒、湖陵45期)

湖陵生の人気が高い職業の一つが、理学療法士だそうです。病气やケガにより、失った機能を回復する大切な仕事です。市立釧路総合病院に、4人の卒業生の方がリハビリテーション科に勤務していますので、お話を伺いました。

まず、栗本一宏さんは、この道20年以上のベテランで、大学時代に理学療法士をすすめられたそうです。近藤優佳子さんは高校時代、知り合いの方からリハビリ関係学校のパンフレットをもらい、「将来の選択肢の一つになりました。その後、札幌医科大学衛生短期大学部に進み、3年間勉強しました。一方、「高校時代は、リハビリという仕事が、あまりわかりませんでした」と笑う松江岳人さんは、秋田にある短期大学で3年間学びました。松江さんと同期生の北出亜希子さんは、中学時代から医療系に進みたいと考えていました。

そんなとき、バイト先の店長さんが、脳卒中のために体が不自由にもかかわらず、元気に仕事をしている姿を見たり、話したりしているうちに、「リハビリ」への興味が増してきそうです。

「理学療法士をめざす人たちは高校時代に何を特に勉強してほしいですか?」と聞いてみました。すると、理科の生物や物理といった基礎的な勉強が、もちろん必要ですが、それ以上に大切なことは、問題をしっかりと考え、答えを導き出すための組み立てができることです。このことは、どんな仕事でも大事なことだと思います。意外だったのは、「人と接するのはちょっと」という方もいらつしやいましたが、そこは経験を積むことで解決できます。また、患者さんと会話をしながら、リハビリのメニューを決めますが、「心の内を感じながら」患者さんと接

することが求められるようです。要するに、体全体で患者さんから発せられるメッセージを受け止め、理解することが大切です。

ここで、松江さんから一言。「実は、はつきりとした進路を決めなまま進学しました。それではないかと思っています。明確な目的を持って、将来を見据えてほしいと思います」とアドバイスしています。北出さんも、「どりあえず」では、ダメです。思いを持ち続けければ、きつと良い結果に結びつきますよ」と理学療法士を目指す生徒さんにエールを送っています。

近藤さんは、「なかなか思い通りにならないこともあります。リハビリって本当に必要な?」と考えることもあります」と話してくれました。でも患者さんが、元気に退院していく姿を見ると、そうした悩みも少しずつ解決していくようです。そして「毎日が勉強

です」と笑っていました。栗本さんは、「患者さんと一緒に、人としての力を取り戻す過程を共有できることは嬉しいです」

とやがいのある仕事であるところを強調していました。
 (湖陵30期 星 匠)



市立釧路総合病院に勤務する栗本さん、松江さん、近藤さん、北出さん (左から)

誠愛勇から

湖陵12期生の巻

文武両道く花の十二期



(元釧路市立駒場小学校長、現愛国フレンド幼稚園長)

湖陵二十五会 会長

種市 徹

正しくは「湖陵12期生の会」と呼ぶべきものであるが、昭和35年に卒業した私たちは「湖陵35会」と呼んでいる。さて、今回の「くまざさ」編集部から原稿を依頼され、在学中だった昭和32年から同35年の湖陵時代を振り返ると、口幅つたいが「文武両道く花の12期時代」（ちよつと言い過ぎかもしれない）と言える。「文」は現在、日本の学界を引っ張っている地位にいる同期の仲間、また、多方面にわたり有用な活動をしている同期の仲間が、ちょうど切磋琢磨して自分を磨いた時代であった。「武」は釧路に初めて「全国優勝」という金文字をもたらしアイスホッケー部の存在が、また、伝統校と言われながら未だに甲子園出場が出来ないという状況のなか、最も甲子園に近かったと思われる野球部全盛時代があった。

1、「文」

地方の高校の1クラスから大学教授が4人も

昭和33年4月のこと、2年生に進級して一步教室に踏み入れた瞬間、「えっ、何？これ！」と呆然とする。教室の中の仲間たちは黒一色。当時男子だけだった工業高校とは違い、少なくとも戦後は男女共学を標榜していた湖陵のクラスに、また男子だけのクラスが誕生したのである。隣のクラスは？と見れば、これまた女子が2人だけ。後から同級生がイヤリングみたいなものとかばやいていたが、男子だけの日組より体裁を整えていたことは確かである。学校側いわく「これは、お前たちが1年生の終わる時に出した進路希望によるクラス分けだ」と涼しい顔。「ああ失敗した！理類進学希望なんて書かなきゃ良かった」という怨念の声はしばらく続き、いや未だに同期の会合の話題で出てくるのは、そのショックの大きかったことを表している。しかし、この男子だけのクラスも満更ではなく、先生方も他のクラスでは決して出来ないであろう話を

したり、また、生徒たちは教え方の下手な教師を批判、ボイコット運動を起こしたりして比較的自由な雰囲気であった。この中から現在、中央の学界で活躍している吉井敏剋東大教授、鈴木晋一早大教授、橘孝二理科大教授、鈴木延夫北大教授などが生まれてきた。彼らいわく、大学でこの話をする「地方の高校、しかも北海道のはずれの1高校の1クラスから、それだけの人材が出ているのは信じられないことだ」と言われるそう。また、他のクラスからも、加藤重雄北海道教育大学教授、分野は違うが建築家の毛綱毅曠（武蔵野美大教授）、画家の羽生輝、それに道議会議員では西田昭紘などが出ている。

2、「武」

全国制覇のアイスホッケー部

新聞に「初の全国制覇」の見出しが躍る。何せ釧路で全国一になるものと言えば北洋漁業を中

心とする港の漁獲量だけぐらゐの時代だから、湖陵のアイスホッケー部がインターハイで全国優勝したというのには大きなニュースだった。駅から北大通のパレード、紅白の餅が生徒全員に配られ、祝賀したのを覚えている。それが、1年生の時と3年生の時の2回もあったのだが、この話、前号の先輩の期で述べられているので割愛する。ここでは一番甲子園に近かった野球部のことについて述べてみたい。当時、甲子園に出場するのは全道1



釧路湖陵高校12期35同期会

全員還暦を寿ぐ総会 平成14年10月19日 品川プリンスホテル

区で1校の出場という困難な時代であったが、湖陵高校野球部は全道の4強（ほかに北海高校、札幌商業、函館工業高校）の一つに数えられ、代表校の下馬評にもほ

事実、昭和34年、釧根地区代表で出場した円山球場の春の全道大会では、札幌とがっぷり互角の戦いを展開、0対1で惜敗した。さらにこの年、北海道は北と南に2分され、代表校が一つ増えるとい

う願ってもない好機が訪れた。なぜなら、北海、札幌、函工の3校は南北北海道地区、湖陵だけは北海道地区だからである。

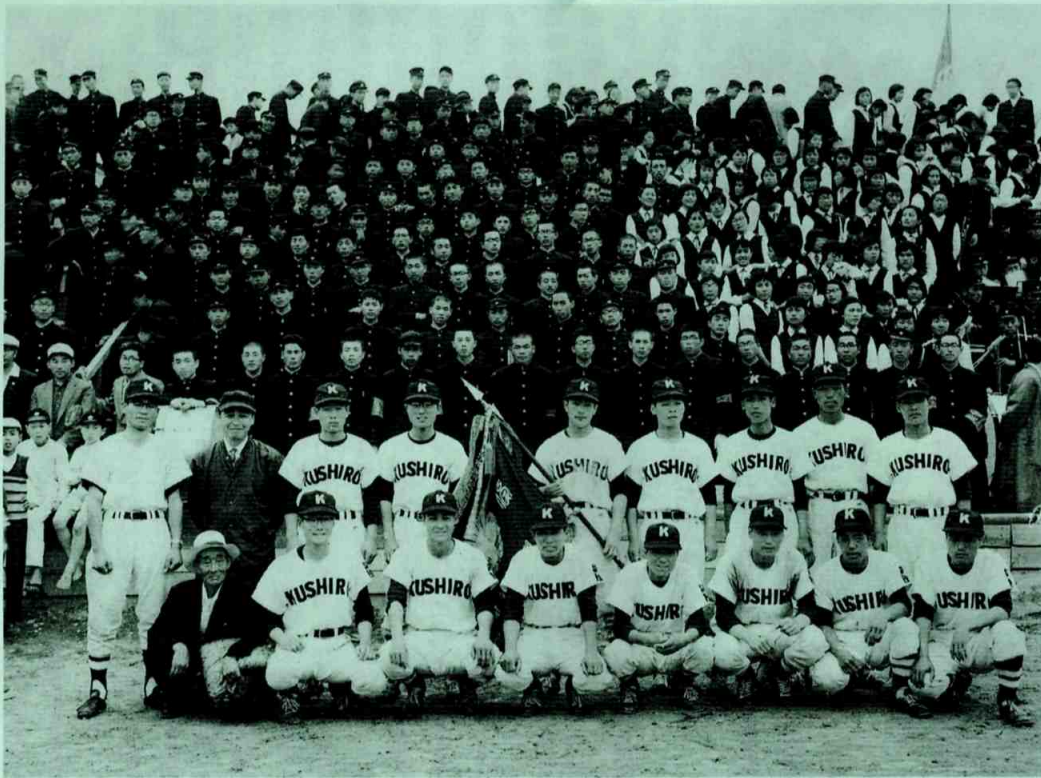
当時のチームの強さは、寺岡、木村の左右の両投手に、藤田、山本、寺岡のクリーンアップ、そして品田ら内外野の堅実な守備にあったが、特に寺岡は全道一の左腕との呼び声高い投手であり、また、4番の山本は1試合に2ホームランを放つほどの強打者であったからである。ところが、満を持して出場した旭川大会では、甲子園への重圧に負けたのか、予想に反し3対7で敗退してしまう。敗因は、投手陣の崩壊（四死球11）であった。甲子園の切符を手にしたのは勝った帯広三条であった。帯広三条には過去3回対戦したが、敗れたことはなかった。

当時、私は生徒会長であったが、甲子園での資金を留保しておくという予算をけちり、組織だった応援団を送らなかつた。思い出すと未だに悔恨する事である。その後、寺岡勝はノンプロの拓銀へ、山本宏はNHKの野球解説者として活躍したので、ご存じの方も多いだろう。

3、結びつき強い同期の仲間

我々同期の者は、家の者に「あなた方、変でない？」と言われるほど結びつきは強く、早くから同期会を結成して、頻繁に集まりを持つている。釧路に本部を置き、札幌、十勝、東京に支部をそれぞれ

れ当番で節目ごとに総会を開いている。今まで阿寒湖、定山溪、屈斜路湖、東京品川、十勝川、支笈湖、新潟と開催されてきた。平成22年には卒業後50周年を迎えるので、今度は箱根でと計画である。



甲子園に最も近かった野球部（卒業アルバムから）



全国制覇のアイスホッケー部（卒業アルバムから）

東京湖陵会

東京湖陵会（板本登会長・湖陵16期）の総会と懇親会が6月21日に、東京都内の日本青年館で開かれました。同会には、釧路湖陵同窓会の栗林延次会長（同17期）や今年設立された関西湖陵会の今井善紀会長代行（同11期）、それに幹事期の20期の20人を含め、約120人が参加し、青春時代の思い出話を花を咲かせました。

総会では、平成2007年度の滝沢勝會計監事（同13期）が退任し、後任に西沢みどり（同21期）さんが選ばれました。懇親会は、



幹事期の20期が一同に

在京釧中・湖陵高健老会会長の遠藤盛男さん（釧中26期）が乾杯の音頭を取り、和やかに始まった。恒例の抽選会では、「釧路の海産物」「福司」「東京名物」など多数用意され、参加した会員は、ふるさとの味を喜んでいました。また、2012年に迎える学校創立100周年の「ジャンパー」と「トレーナー」も販売されました。来年は同会が発足して20年を迎えます。同会では、「役員が中心となり、今から準備をしたい」と話していました。

関西湖陵会

「関西湖陵会」が発足

去る4月26日、「関西湖陵会」初めての総会・懇親会が開かれました。関西在住同窓生の永く待ち望んだ会合の産声です。

この日、大阪駅前前の会場「ニュートーキョー」に馳せ参じたのは、東京湖陵会から駆けつけていただいた小森研二副会長（湖陵16期）を含め19人。最長老 昭和14年卒の育田義夫大先輩（釧中22期）から昭和59年卒（湖陵36期）まで、年の差半世紀にも及ぼうかという、まさに湖陵老若健男女たち。

久しぶりの「♪日出づる国の北陸に…」の合唱に感激し、また「年



4月に発足した「関西湖陵会」



の差」も、初対面という壁もあっさり乗り越え、あっという間に打ち解けあった、全く楽しく短い3時間でした。幹事もすっかり巻き込まれ、酒食のサービスを怠りがちに（大反省）。少人数故の出席者お一人お一人のスピーチも有意義なものとなりました。

戦争前夜 昭和14年に卒業された育田氏の戦前・戦後の経験談は、あらためてじっくり拝聴したいと感じましたし、滝滋氏（湖陵8期）の南米での貴重な経験談も興味深くお聞きしました。卓球界の重鎮にして、生涯現役と豪語(?)する高橋基道発起人（湖陵10期）の元気の秘けつにも大いに関心を持ちました。他にも多士

濟々、貴重なお話の数々、与字数の制約ゆえに割愛せざるをえぬこと、甚だ残念です。終盤、今井善紀発起人（湖陵11期）より、

来年の総会・懇親会までの「暫定」会則案・人事案が提案され、承認されました。来年に向けての幹事は、会長に育田義夫、会長代行に今井善紀、世代代表幹事に佐藤敏哉（湖陵10期）、原田祐輔（湖陵18期）、福田孝寿（同）、品田勇治（湖陵35期）、中村麻文（同）、顧問に高橋基道の各氏にお願いしました。

最後に、佐藤敏哉発起人の発声で万歳を三唱し、来年4月18日、午後2時の再会を約して散会しました。

札幌湖陵会

札幌湖陵会（伊藤拓摩会長・湖陵21期）の第22回定期総会と懇親会が、7月5日にホテルロイトン札幌で開かれ、参加した会員は、学生時代の思い出話を花を咲かせていました。総会には、約240人の同窓生が参加、釧路湖陵高校の片岡辰三校長、釧路湖陵同窓会

から栗林延次会長（同17期）、曾宇恭久副会長（同21期）、島本幸一幹事長（同19期）、そして東京湖陵会から板本登会長（同16期）も駆けつけました。

まず物故者に黙祷が捧げられたあと、全員で校歌を斉唱、伊藤会長が、「開校100周年まであと4年と迫りました。それに向けて若い世代の会員を増やしていきたい」とあいさつ、続いて、片岡校長、栗林会長が祝辞を寄せました。

懇親会は、東京湖陵会の三上希予子副会長（釧中18期）が乾杯の音頭をとり、ステージでは飛び入りでスピーチが始まるなど、和やかな雰囲気で行われました。



和やかな雰囲気で行われた札幌湖陵会

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。

「くまざさ」53号発刊に当たり、昨年からの学校の様子を簡単に伝えします。

〈9月〉

・統一学校説明会

本校体育館を会場にして、湖陵高校が参加を要請した道内外約70の大学・短大などが参加し、行われました。各大学のブースに積極的に足を運び熱心に質問する生徒の姿が見られました。昨年度は第5回目で、今年も8月末に第6回が予定されております。一つの高校が主催して、その高校が求める大学に参加してもらう、このような説明会が定着している例は全道でも数少ないそうです。

〈10月〉

・見学旅行

2学年のクラスを2班に分け、1日ずらして出発します。4泊5日の日程で、京都・奈良・東京方面へ行ってきました。

〈11月〉

・片岡辰三新校長が着任しました。

〈1月〉

・センター試験

今年は240人、生徒の約87割が受験しました。ほとんどの私大がセンター試験に参加している現在、私大専願者でもセンター試験を受けるのが、普通となつています。試験当日は受験生徒の激励のため、朝早くから極寒の中、会場の公立大学に立つ多くの先生方の姿が見られました。

〈3月〉

・第60回卒業式。277人の生徒が湖陵の誇りと夢を胸に、学窓を巣立ってゆきました。

今回の卒業生の進学実績は国立大現役合格者が132名という素晴らしい結果になっています。

・器楽部

アンサンブルコンクール全国大会金賞

2月の全道大会で北海道代表になりました湖陵器楽部ですが、3月20日にさいたま市で行われた全日本アンサンブルコンクールで、みごと金賞に輝きました。器楽部が全国大会に進出したのは初めてで快挙と言えますが、レベルの高い全国大会高等学校の部において金賞を得たことは「北海道の快挙」ということが言えるくらいすごいことです。

・教職員異動

田中教頭を始め12名の教職員が

異動・退職しました。中でも佐々

木雅弘先生の25年、一條先生と西村先生の16年、佐藤章子さんの37年と、長年湖陵高校のために力を尽くしていただき、どうもありがとうございました。

〈4月〉

・教職員異動

丸木教頭を始め15名の新任教職員を迎えました。

・平成20年度入学式（新入生283名）

・宿泊研修（1年生、川湯温泉御園ホテル）

・湖陵の日（4月29日）

P.T.A総会と授業公開・進路講演会・学級懇談を併せ、休日に行われております。また、夜には全日空ホテルに会場を変え懇親会が開催され、多くの父母と教職員が参加し盛大に開催されました。

〈5月〉

・教育実習（13名の卒業生を迎えました。）

・高体連剣根支部予選

団体または個人で全道大会に進出したクラブは次のとおりです。

陸上部・テニス部・バドミントン部・ハンドボール部・柔道部・剣道部・弓道部・卓球部・空手道部・山岳部です。文化系ですが放送局も全道大会に進出してあります。

〈6月〉

・高体連全道大会

全道大会においては各クラブともよく健闘しました。特に陸上部の里見萌さん（2年）は女子400mで、7月末から始まる埼玉県熊谷市でのインターハイに出場します。

昨年同窓会からご支援をいただき、全国大会に行かせていただきます。今年も全道大会

た将棋団体ですが、今年も全道大会

会決勝で札幌光星高校に敗れ惜しくも準優勝で全国大会へは出場できませんでした。

以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによりしく願います。

（湖陵26期、渋谷倫之）

互輝会 東京で親睦深める

互輝会

湖陵5期の「釧路湖陵互輝会」（事務局・舟崎明雄さん〓小平市在住）東京大会が、5月に開かれました。同会では、千葉、東京、埼玉、横浜が輪番制で幹事を引き受けています。今年も東京の番で、釧路を含めて全国各地から37人が集まり1泊2日の同大会を楽しみました。

東京タワーや浅草など都内を観光し、中でも、オープンバスはとつても好評でした。宿泊と夕食は憧れの「帝国ホテル」。エレベーターでは、外国人が多く、日本には思えない雰囲気も味わいました。夕食は17階のbuffet料理。どれもおいしく、夜景を見ながら超一流の料理に舌鼓をうっていました。高校時代の思い出や同期の消息など、いつまでも話は尽きることなく、あつという間の2日間だったようです。来年は、千葉が幹事です。

（湖陵30期 星 匠）

総会三番期より

光陰矢の如しと申しますが、高校卒業してから今日に至るまで四半世紀も過ぎてしまいました。その当時、予備校しか進路先が決まっていなかった私は、先行き不安な気持ちで卒業式を迎えたことを今も鮮明に覚えています。現在も同じような経済情勢の中、いまだ独自の私は、やはり先行き不安な気持ちで生活しています。

自分の事はさておき、同期のみなさまは、いかがお過ごしでしょうか。「元気でですか。元気があれば何でもできる」という乗りで、今回幹事期として少しばかりですが、お役に立てればと思っ

ています。当時1クラス約40人、10クラスあったので、1学年400人の大集団ですから、社会人になって釧路に戻り、最初に会ったのは、もちろん高校の同級生でした。それからは、いもづる式に出会いが広がり、いまだに飲み友達となっております。

高校の時は、ほとんど接点がなかった者同士でも、あの富士見の懐かしい校舎で同じ3年間を過ごした仲間ですから、総会開催に向けて真剣に話し合い、少しずつ準備を進めてきました。いたらない

坂本二哉（さかもとつぐや、釧路31期）著、平成18年愛育社発行。1929年釧路市洲崎町生まれ。日進小・釧路中学・海軍経理学校予科・仙台二高を経て1954年東大医学部卒。1962年渡米留学、1975年東大医学部講師を経て1990年東大医学部教授。父勇、兄一（はじめ）は釧路市で開業医。本の帯に「反骨の医学者、坂本



出版案内 『海霧の町から』

二哉博士がはじめて赤裸々に語るその生い立ちと半生記。海霧がおおむね釧路に生を受けた博士が心臓病学の泰斗として無数の病者の力となり自ら創設した日本心臓病学会の名を世界に高めるまでの不撓不屈の日々を追憶する文学の香り高い自伝。全211頁、定価1890円。

昭和前期の釧路市民の描写に興味をわく。専門的知識の難解さは別にして白い巨塔に渦巻く権威権力闘争の実態を壮絶で明白に描くがその視点は著者の優しい眼差しに溢れ爽やかな読後感。（湖陵18期 田巻恒利）

点もあるかと思いますが、総会当日は旧交を深めるもよし、また諸先輩方から受け継がれた、そしてこれからも引き継いでいかなければならない伝統の重さを感じて、これからの糧にしていきたいと思

います。男で42、43歳と言えば、ちょうど厄年も終わり、「四十二シテ感ハズ」という言葉が示すように、自信をもって仕事に当たることが出来る年齢になったと考えるのであります。社会の、会社の、家

編集後記

▼60歳の退職を機に、船釣りに挑戦することにした。当初の4年位は結構釣果もあったが、ここ3年間は不漁続きの状態である。
▼6月初旬、羅臼の相泊港から出て一時間程度で釣り場へ。波も穏やかで、絶好の釣り日和であり釣果を期待したが思わしくなかった。数年前までは、いわゆるクーラー釣りとと言われるような大量の漁獲であったが、その五分の一にも及ばない状況であったのは残念。

▼6月下旬は釧路沖の宗八蝶釣りに挑む。ポツリポツリとは釣れるが以前ほどではない。以前は、10本の釣り針に全部掛かるくらい釣れ、百枚を超えるほど釣れたが、それは夢のまた夢である。
▼釣りの場合、水温や流れの状況によつて釣果にムラがあるのは十分承知しているが、ここ3年程はだんだん釣れなくなっている。羅



（写真、左より）田巻恒利、佐藤文昭、増子正樹、星匠、川端紀一

白沖ではオキアミの異常発生や釧路沖では糸を汚すヌメリなどが出ており、地球温暖化による海洋汚染などの影響かとも考えられる。
▼それはともあれ、早朝から午前一杯海面に糸を垂れ、虚心坦懐に獲物をねらう気分は忘れ難いものがあり、今後もあちらこちらの漁場めぐりに精を出すことにしよう。釣れれば喜び、釣れなくても落胆せず、また出かける虚心坦懐ならぬ「魚信探海」のこの頃である。（湖陵11期 川端紀一）

釧路湖陵高校
〒085-10814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-1313
ホームページ
<http://kushiro-koryuinpinfosec.co.jp/>

くまざさ編集委員会
同窓会会長 栗林延次（湖陵17期）
同窓会幹事長 島本幸一（湖陵19期）
同窓会会計長 佐藤文昭（湖陵22期）
編集委員長 星匠（湖陵30期）
編集委員 川端紀一（湖陵11期）
編集委員 増子正樹（湖陵20期）
編集委員 渋谷倫之（湖陵26期）
編集事務局長 田巻恒利（湖陵18期）

くまざさ編集委員会
〒085-10014
釧路市末広町2丁目4番地
TEL0154 (23) 0241
TEL0154 (23) 0241
手動切替FAX 0154 (23) 0242